

「志學館未来計画2016-2021」

人を社会へ結ぶ。
今を未来へ結ぶ。



志學館大学大学院

志學館大学

鹿児島女子短期大学

志學館高等部

志學館中等部

鹿児島女子短期大学附属 かもめ幼稚園

鹿児島女子短期大学附属 なでしこ幼稚園

鹿児島女子短期大学附属 すみれ幼稚園

なでしこ保育園

学校法人 志學館学園

計画にあたって

平成19年に創立100周年を迎え、長い歴史と伝統をもつ志學館学園は、二十一世紀においても地域を担う教育機関として存続すべく、「第1次中期経営計画（2008-2009）」及び「第2次長期経営計画（2010-2015）」を策定し、設置校をはじめ法人各部門の連携のもと計画実現に向け邁進してきた。

平成21年4月の鹿児島女子短期大学キャンパス、平成23年4月の志學館大学キャンパスの移転事業は、地域社会から高い支持を得て、経営安定の基礎を築くものであった。また、他にも様々な事業が積極的に推進・展開され、策定した計画は概ね達成されたものと評価できる。

しかし、少子化・若年人口の減少による大学・短期大学等の高等教育機関への志願者数は毎年減少傾向にあり、特に鹿児島県は大学進学率の低迷と大学進学時の県外流出超過も相まって、募集対象者の減少による他教育機関との競合がますます激化している状況である。

一方、地域社会を担う多様な人材の確保と、地域における多様な就業の機会の創出を一体的に推進する「まち・ひと・しごと総合戦略」のもと、スピード感のある学校経営の改革が求められている。

このような環境のなか、志學館学園が更なる発展を遂げるためには、各設置校の外部・内部環境の分析を行い、取組むべき目標を設定し、それを確実に実行することが不可欠である。全教職員が現状を正しく認識し、同じ意識で目標の達成を目指すことにより、長期ビジョンが実現することとなる。

上記の認識のもとで、教職員一人ひとりが課題を出し合い、SWOT分析により策定されたものが『志學館未来計画2016-2021』である。

なお、当計画は平成28年度から平成33年度の6年間で視野に入れるが、取り巻く環境の変化が激しいため、毎年度、計画の進捗状況を精査し、施策の方向性を継続しつつ、次年度の計画を柔軟に再構築できるものとした。

それぞれの事業計画推進にあたっては、学園のガバナンスのもと、全教職員が目標達成に向けて邁進することが重要である。

I 建学の精神

「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」

- ◆ 「時代に即応した」とは... 情勢の変化に対応して、合理的で効果的、かつ弾力的な運用を図るべきことを意味する
- ◆ 「堅実にして」とは... 人間としての教養・徳をつけること、つまり人間としての豊かさ等を意味している。
- ◆ 「有為な人間」とは... 豊かな人間性の上に、健康な体、強い意志、創造力と企画力、集団への適応と貢献の能力、科学や情報に対する理解と技術、国際人としての教養等を身につけ、国家・社会の発展に寄与しうる人間、即ち「実用」と「教養」を実現できる総合力を身につけた人間をさすものである

II ミッション（使命）

「よりよき社会の創造を担う人材の育成」

志學館学園は、学校教育のあり方において社会全体を通じた課題と現状を直視し、国家・社会の発展に寄与しうる人間を育成することを使命とする。これは「建学の精神」の実現そのものであり、また、現在の日本社会において教育界に求められている課題でもある。

社会の創造を担う自立性・社会性を持った人材を育成し輩出することで、よりよき社会に貢献しうる学園を目指す。

Ⅲ 理事長所信（2016-2021）

理事長 志賀 啓一

「温故知新」

～次の時代を次の世代に託すために～

はじめに

学校法人志學館学園第4代理事長、故志賀達一先生は、生前ある講演に際し、当時大きな話題となっていた遺伝子操作やクローン技術等、バイオテクノロジーに関わる事例に触れ、次のようなことを述べられました。

「今まで科学技術に対して保ってきた理性的、倫理的優位性と、精神的なコントロールを更に強め、人間の驕りを捨てなければ、地球上の生物が消滅する危険性を孕んでいるのです。このような凄まじい内容を孕む二十一世紀を生きていく若い人達には、発達した科学技術の成果を認めつつもそれに溺れず、それを批判する精神的文化を包括していく姿勢として、人間が人間や他の生物のどこまで手を加えることが許されるのかという判断が求められるでしょう。すると若い人達は、人間の幸福にとって確固たる不偏の価値とは何かを見つめ、地球上の全生物に対する責任を背負って判断をしなければなりません。その判断の結果に、二十一世紀に生きる地球上の生物の生命と幸福がかかっています。このような時代こそ人間教育を重視する私学教育が真価を発揮し、将来を担うたくましい若者を育てなければなりません。」

この講演が行われて十余年経った今、科学技術はなお進歩し続け、膨大かつ複雑な情報が社会に溢れています。今やひとつの専門分野を研究するにしても、各分野を越えた、学際的な視野や思考が必要とされてくる時代です。この多様化、複雑化している現代社会を生き抜き、そして牽引していく人材となるためには、単に広く知識を持ち、深く専門の学芸を身につけるだけでなく、学び得た知識や学芸を活かし、また制御できるだけの人格形成が必要となります。

学校法人志學館学園は、明治40年に創設され、百余年の歴史を刻んでいます。先人の思いを受け継ぎ、現在では「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」を建学の精神とし、「人格の完成を目指す教育」を教育理念として、幼稚園、保育所から大学院まで、幅広い教育課程を設置するに至りました。いくつもの苦難の時期を乗り越えてこられたのも、先人たちが「地域社会に受け入れられ、また貢献できる学校とは何か」を真剣に考え、教育と学校運営に尽力されてきたからこそと考えます。我々は、感謝と敬意の心をもって、この輝かし

い歴史と伝統を改めて見つめ直し、今何が必要であるかを見極め、未来を担う子どもたちへ伝えていかななくてはなりません。次の時代を次の世代に託すために、温故知新の精神をもって、建学の精神を具現化してまいります。

今の時代だからこそ必要とされる人間像

2010年度より開始された第二次経営計画においては、「よりよき社会の創造を担う人材の育成」をビジョンとし、それぞれの学校で具体的な経営計画を策定し、推進してきました。2016年度からは、学園スローガンとして「人を社会へ結ぶ。今を未来へ結ぶ。」と定めた上で、各設置校においてスローガンと長期ビジョンを掲げ、より具体的かつ実践的な計画体系を構築することとなります。計画項目は細部にわたって定められていますが、これらの根本に位置づけられる建学の精神や教育理念の具現化は、私立学校の大きな使命でもあり、その本質は見失わないようにしていかななくてはなりません。

現代の日本においては、地域コミュニティの崩壊が指摘され、核家族ですらなく独り暮らし世帯も増えている中、新たなコミュニティのあり方が確立されないまま、その風潮を助長するような社会になっているように感じます。良くも悪くも人と触れ合うことなしに生活が成り立ってしまうだけのサービスが提供される時代です。その結果人間関係が希薄化し、子どもはもちろん、かつては腹を割って話し、夢を語り合った大人たちさえもコミュニケーション能力が欠如していつているのではないのでしょうか。一方で、東日本大震災をはじめとするさまざまな災害現場で見られたように、日本人の根底には、利他の精神、思いやりの心が確かに存在し、これらは世界に誇れる精神性であります。この精神性は、教育課程には直接顕れない形であっても、全国の学校で伝えられてきたはずのものなのです。本学園が策定している経営計画や単年度の事業計画においても、根底にある理念を理解した上で、具体的項目を達成していかななくてはなりません。

学園の創設者満田ユイ先生は、「雪のごとく清らかに 月のごとく明らけく 花のごとく撫子の 強く優しく」という言葉を遺され、本学園の教育理念を具体的に実践する時の心構えとして親しみやすく理解できる「みおしえ」として伝えられてきました。この「みおしえ」は、女性的な文体表現にかかわらず「清く、明るく、強く、優しく」というその内容が人間としての在り方、人の美しい生き方を表すものとして、男女共学になった今なお、脈々と学園に継承されています。「みおしえ」は、どのように時代が変わり、また制度や課程が変わろうとも、目指すべき人間像のひとつと考えます。今や少子化の歯止めはきかず、昔のようなコミュニティを創造できる可能性は極めて低いと考えられます。こんな時代だからこそ、新たなコミュニティ、新たな絆のあり方の形を私学の一員として示す必要があり、その際には今一度、この「みおしえ」を見つめなおし、現代社会において必要な人間像として発信していくべきではないのでしょうか。具体的な手法として教育の中で伝えていくだけではなく、教職員一人ひとりがこの「みおしえ」を具現化できるような人間性を持ち、学生・生徒・園児をはじめと

するステークホルダーに対し、規範となれるような人材となっていたきたいと思います。

地域に貢献できる高等教育機関となるために

全国では大学・短期大学をあわせた進学率が60%を超える中、鹿児島はまだまだ進学率が低い状況です。だからこそ、地方の高等教育機関としての役割が重要になってきます。これからはより一層、地域に必要とされる大学・短期大学とは何かを見極め、それぞれのカリキュラムを構成していかなくてはなりません。

志学館大学は、創立からおよそ40年、男女共学化し、現在の名称となって15年が経ちます。この間、法学部の開設、文学部から人間関係学部への名称変更、大学院の設置や改組を行い、地域のニーズに応じてまいりました。教職員と学生の距離が近い大学として、今後もより一層ソフト・ハード面ともに学生の声を集め、それに応えられる環境を整えるとともに、今後は学生を含めたステークホルダーに対しても教職員からのメッセージが伝わるような体制を整えていかなくてはなりません。

鹿児島女子短期大学は、2015年に創立50周年を迎えることができました。児童教育、生活科学、教養の3学科は、課程こそ少しずつ変えながらも、その原型は変わることなく歴史を刻んでいます。次の世代を育てられる人材、人々の生活を守れる人材、広い知識と教養をもつ人材は、いずれも地域社会にとって必要不可欠です。今後も資格や制度のあり方はめまぐるしく変わると予想されますが、地域に必要とされる人材の本質を見失わないようにしながら、時代の流れに対応していかなくてはなりません。

また、高等教育機関は、学生の履修課程のみならず、サークル等の課外活動、教員の研究や社会でのさまざまな活動、行事を通じての交流活動など、社会貢献の多くの手段がある機関です。大学・短大は、県内外、また国内国外を問わず、多くの人材が行き来する場でなくてはなりません。「Think Globally, Act Locally」という言葉が使われるようになって久しいですが、これはまさに、地方の高等教育機関において実践しなくてはならないことです。今後さらに内外の交流が活性化する事業を推進し、学生はもちろんのこと教職員にも広い視野を身につけるための機会を設け、世界規模で鹿児島を考えられるような人材を育成してまいります。

個性と社会性の両立ができる人材の育成を目指して

志学館高等部・中等部は、30年に満たない歴史でありながらも、地域社会の皆様からは高い評価をいただき、また卒業生も各方面で活躍しています。若い学校であるからこそ、教職員、生徒、また保護者の皆様も含めて、学校に関わった一人ひとりが情熱を注がれた結果にほかなりません。志学館が高い評価を得られておりますのも、その自由な校風の中にあって、生徒自身が責任感を持ち、「自立」だけでなく「自律」できる人間性が育成されているからこそと考えます。個性を伸ばすということは、多くの私学で謳われていることでありますし、

本学園でも推進していくところではありますが、他人と協調し、また相互の意見を尊重していかなくては、活かされるものではありません。個性と社会性が両立し、学力、人間性、行動力が備わってこそ、有為な人材となりうるのです。

これから円熟期を迎える本校においては、これまでの情熱をそのままに、同窓生との絆も確かめ合いながら、たしかな学力、ゆたかな人間性、たくましい行動力という教育理念を堅持し、次の時代を担う若者を育成してまいります。

教育機関における保育のあり方の確立を

鹿児島女子短期大学附属かもめ幼稚園、なでしこ幼稚園、すみれ幼稚園では、遊びや体験を通じた保育を軸に、それぞれの年齢に応じた保育計画に基づき、子どもの自主性、社会性、積極性を育む保育を行ってまいりました。付帯施設であるなでしこ保育園もまた、保育所でありながらも、これに準拠する保育目標を掲げています。今後も園児の個性を伸ばし、一人ひとりの豊かな心や生きる力を育てていくとともに、園児の社会性の育成もまた非常に重要であると考えます。本学園では、園児はもちろんのこと、教員、保護者、教育実習生、地域社会や進学する小学校を含め、全てのステークホルダーの方々とのさらなるコミュニケーションの強化を図り、その根底にある人と人とのふれあいを大切にまいります。

また、平成27年度にはいわゆる子ども・子育て3法に基づき、新制度による認定こども園への移行が始まりましたが、本学園としては、現行制度の幼稚園並びに保育所のままとしました。今後もどのような制度の改正が行われようとも、学校法人として、建学の精神に基づく教育は堅持していかなくてはなりません。教育機関である私立学校として、また養成校をもつ学校法人として、こういった体制が最も本学園の理念を具現化し、乳幼児の教育、保育に必要なか検証しながら、慎重に選択してまいります。

理念の相互共有を目指す学園へ

本学園は、大学・短期大学・高等学校・中学校・幼稚園、そして保育園を設置する総合学園です。とはいっても、一貫して進学していくわけではなく、それぞれの課程が、それぞれの教育目的と教育内容をもって創設され、発展してきたものです。その特色を活かし、設置校間で相互に補完するような形で連携事業も様々な形で行ってまいりましたが、個々の事業における連携に留まっているのが実情です。それぞれの連携事業を推進していくことももちろんですが、そのためには全体的な方針と理念を共有し、さらには各設置校が相互の教育方針や事業内容を理解していくことが必要です。

また、同じ学校に所属していても、部署が異なるだけでほとんどコミュニケーションがとれていない状況があるのも事実ではないでしょうか。学園全体としては、日常の経営、財務、広報活動等の情報を共有していきながらも、今後は周年行事をはじめとする各設置校の行事に加え、教職員の交流や情報交換の機会を設け、相互理解を深め、設置校間の距離がより近

くなれるような学校運営を行ってまいります。

前理事長志賀壽子先生は、わずか10年の間に、大学院の設置、学部改組、保育所の設置、人事や組織の改革、校舎の移転といった、学園の転換となる様々な大きな事業を成し遂げられました。これらが実現できたのも、積極的な情報公開を行い、また設置校をつなぐさまざまな会議体を有効に機能させることによって、現場の意思を吸い上げ、問題意識を共有し、学園が一丸となれる組織体制を整えられたからに他なりません。今後も学園内においてはさまざまな改革の必要に迫られる機会があると予想されますが、十分な議論を行い、また決定したことは一丸となって推進できるような組織運営を継承してまいります。

むすびに

創設者満田ユイ先生の後継者となり、学校法人としては初代の理事長となった志賀フヂ先生は、地域の女子教育の先駆者として、さまざまな講演や寄稿、また随筆を残されています。その中で、いきすぎた平等思想に対する警鐘ともいえる記述が多くみられます。昭和38年の講演においては、今後は良妻賢母を育てるだけの時代ではないとしつつも、女性は女性らしくあり、その特有の性質を以て人類文化に寄与しなければならないと述べられています。女子教育について第一線に立っていたからこそ、ややもすると男女は全て平等であり、何もかも同じようにしようとする社会の風潮をひしひしと感じ取っていたからではないかと推察されます。半世紀たつてなお、今でも日本でこの種の問題が絶えないのは、社会システムはそのままに、男女に同じ役割を担わせようとしてしまっているからなのではないでしょうか。我々は、教育という視点から、社会のあり方も常に注視し、時には小さくとも声をあげていく必要があります。全ての人々が生き生きと暮らせるような社会づくりの一端を担うこともまた、私学の使命と考えます。その積み重ねが、新たな価値観の創造につながるのです。

次の世代が幸福になれるような次の時代を創造していくよう、学園一丸となって取り組んでまいります。



IV 計画策定の背景

◆ マーケットの縮小

少子化・若年人口の減少により、学校法人経営の厳しさが増している。大学・短期大学等の高等教育機関への志願者数は毎年減少傾向にあり、特に鹿児島県は大学進学率の低迷と大学進学時の県外流出超過も相まって、募集対象者の減少による他教育機関との競合が激化する状況である。

これからも教育機関としての魅力をなお一層向上させ、経営の安定化を図らなければならない。

◆ 地方創生に伴う教育の活性化

地域社会を担う多様な人材の確保と、地域における多様な就業の機会の創出を一体的に推進することが喫緊の課題となっている。

教育機関として、地域に誇りを持てる教育を推進し、地方創生を担う個性・特色ある人材の育成が期待されている。

◆ 教育行政の変化への対応

私立大学経常費に占める補助金比率は10%程度に減少し、教育研究や財務の状況に応じた傾斜配分型の補助金の比重が高くなっている。

財政基盤の安定化を図るためにも、競争的補助金制度の方向性に合致した教育条件や管理運営の適正化が急務である。また、補助金以外の外部資金の増加等、多様なチャネルの開拓を行う必要がある。

◆ 鹿児島県の地域特性

鹿児島県の農業産出額は年間4,100億円と日本有数（第4位）の農業県であり、国内外から年間370万人の観光客が訪れる観光県である。特に外国人観光客は大幅に増加しており、韓国・台湾・香港等の東アジアからの観光客が全体の約8割を占めている。

また、10万人あたりの医療施設数・65歳以上10万人あたりの福祉施設数はともに全国第2位であり、医療・介護充実県でもある。

これらの地域特性を生かし、地域経済のポテンシャルの顕在化に社会と連携して取り組まなければならない。

V 計画策定の目的

◆ 建学の精神に基づき、教育目標・運営方針を明確化し、教職員の認識の共有化を図る

設置校の教育・研究の現状を正確に点検・評価することにより、「建学の精神」に基づき、今後の教育目標・運営方針を明確化する

◆ 人口減少問題を見据えた経営基盤の強化を図る

教育機関としての魅力を一層向上させ、地域に誇りを持てる教育を推進し、地方創生を担う個性・特色ある人材の育成に取り組まなければならない

◆ 志學館ブランドを深化させ、教育による地域発展に貢献する

志學館学園のブランド力を向上させ、厳しい社会情勢のもとにおいても、教育・研究活動を継続し、地域社会に貢献し続ける

VI 第3次経営計画タイトル

志學館未来計画 2016-2021

VII 学園スローガン

人を社会へ結ぶ。今を未来へ結ぶ。

VIII 計画推進の基本方針

学園本部及び各設置校においては、『志學館未来計画 2016-2021』の「基本計画」⇒「取組戦略」⇒「具体的な取組み内容」について「施策」を策定し、「単年度事業計画」にて具体的なアクションプランと6ヶ年のタイムテーブル、担当者を取り決める。

単年度終了時には、「Plan（計画）」⇒「Do（実行）」⇒「Check（検証）」⇒「Action（改善行動）」により、計画の進捗状況を精査したうえで、「施策」の方向性を継続しつつ、次年度の「単年度事業計画」にてアクションプランを再構築できるものとする。

なお、学園本部の基本計画「環境力の充実」の具体的な取組内容となる「学園施設設備投資計画」に関しては、外部環境や財政状況の変化等に応じて柔軟に対応する。



第3次経営計画策定イメージ

【建学の精神】

『時代に即応した堅実にして
有為な人間の育成』

【ミッション（使命）】

『よりよき社会の創造を担う
人材の育成』

【計画策定の背景】

マーケットの縮小
地方創生に伴う教育の活性化
教育行政の変化への対応
鹿児島県の地域特性

【タイトル】 志學館未来計画 2016-2021

【学園スローガン】 人を社会へ結ぶ。 今を未来へ結ぶ。

【計画策定の目的】

建学の精神に基づき、教育目標・運営方針
を明確化し、教職員の認識の共有化を図る

人口減少問題を見据えた経営基盤の強化を
図る

志學館ブランドを深化させ、教育による地
域発展に貢献する

【理事長所信 2016-2021】

～次の時代を次の世代に託すために～

地域に貢献できる高等教育機関となるために

個性と社会性の両立ができる人材の育成を
目指して

教育機関における保育のありかたの確立を

理念の相互共有を目指す学園へ



【スローガン】

鹿児島県の私学の雄となる

【長期ビジョン】

深く専門の学芸を教授研究し、人間力を養成する教育を行い、地域と社会に貢献する人材を輩出する大学となる

I. 教育・研究活動

1. 「学士力（人間力）」を保證する教育の一層の確立と増強・質的転換の断行

- ① 人間力を保證する教育
- ② 教育課程・方法の検証

2. 皆資格・高資格を目指す教育

- ① 教職課程の充実
- ② 資格センターの充実
- ③ 新たな国家資格への対応と準備

3. 研究活動の充実

- ① 教員の研究活動の質向上
- ② 地域課題解決に向けた研究活動の推進

4. 大学院教育の充実

- ① 大学院教育の充実

5. 国際交流・多様なニーズへの対応

- ① 国際交流文化の醸成
- ② 留学生および社会人教育の在り方の検討

II. 学生支援

1. 学修・適応支援の強化

- ① 学生支援体制の充実
- ② ICT 活用による学生支援システムの構築

2. 学修環境の整備

- ① 教育環境の整備
- ② 学生アメニティの向上

3. 進路支援の強化

- ① キャリア教育の支援と充実
- ② 進路支援体制の充実

III. 管理運営

1. 大学諸制度の検証と再構築

- ① 高大接続のあり方の検討
- ② 大学諸制度の検討

2. 組織力向上とガバナンスの強化

- ① 業務効率化
- ② リスク管理とコンプライアンスの強化

3. IRの推進

- ① 情報集約・分析とその有効活用
- ② 種々の学生調査等の実施

4. 情報基盤の整備

- ① セキュリティ強化
- ② 環境変化に対応した情報基盤のアップデート

5. 大学資源の有効活用

- ① 多目的施設の整備に関する検討

IV. 学生受入

1. 入学定員の充足

- ① 広報力の強化
- ② 募集活動の強化

2. 設置校間連携

- ① 志學館中高等部との連携の強化
- ② 鹿児島女子短大との連携の強化

V. 社会貢献

1. 地域貢献

- ① 地域協働センター活動の充実
- ② 生涯学習センター活動の充実
- ③ 心理相談センター及び発達支援センター活動の充実

2. 地域に根差した大学作り

- ① 自治体・企業・団体等との連携
- ② 地域課題への積極的な取組

3. ステークホルダーとの連携強化

- ① 同窓会連携
- ② 後援会連携



【スローガン】

地域と共に未来を拓く

【長期ビジョン】

半世紀にわたる伝統を継承しつつ、地（知）の拠点として地域に貢献し地域と共に発展する短期大学となる

I . 教育・研究活動

1. 「学びの質」の向上
 - ① 「主体的な学び」の推進
 - ② 学習支援・履修指導の充実
 - ③ きめ細かい実習指導の実現
 - ④ 研修の充実
2. 教育課程の検証と見直し
 - ① カリキュラム・ポリシーの検証
3. 教育方法の検証
 - ① 学びの可視化の検証
 - ② IR の推進
4. 地域の担い手育成教育の推進
 - ① COC 科目の充実
 - ② 地域との連携教育の充実
 - ③ 地域貢献活動の促進
5. グローバル化への対応
 - ① グローバル化を意識した教育の充実
 - ② 海外研修の充実
6. 研究活動の充実
 - ① 地域の特性を生かした研究の促進
 - ② 学科教員による共同研究の促進

II . 学生支援

1. 多様な学生に対する支援の充実
 - ① 多様な学生に対する支援の充実
2. 教員の「教師力」の向上
 - ① 教員の「教師力」の向上
3. 特待生・奨学生制度の充実
 - ① 特待生・奨学生制度の充実

III . キャリア教育 進路支援

1. キャリア教育・支援の充実
 - ① キャリアガイダンス
 - ② インターンシップ
2. 進路支援の充実
 - ① 公務員、教員採用試験、進路対策の支援
 - ② 資格取得支援
 - ③ 報奨制度の検討
 - ④ 進路に関する調査と分析

IV . 学生受入 (学生募集)

1. 高大接続改革の動きへの適切な対応
 - ① アドミッション・ポリシーの精緻化
2. 入学定員の充足
 - ① 外部環境の変化に対する適切かつ柔軟な対応
 - ② 志学館大学との連携
 - ③ マーケティングを活用した募集活動の効率化
3. 広報活動の充実
 - ① 広報活動の充実
4. 学生受入に対する多様なニーズへの対応
 - ① 学生受入に対する多様なニーズへの対応

V . 社会貢献

1. 地域貢献
 - ① 公開講座の充実
 - ② ボランティア活動の推進
2. 地域創生・連携
 - ① 自治体・企業・団体等との連携
 - ② 他大学等との連携
3. 各設置校との連携
 - ① 附属幼稚園・なでしこ保育園との連携
 - ② 志学館大学との連携
4. 卒業生との連携
 - ① 同窓会との連携
 - ② リカレント教育の実施
 - ③ 卒業生に対する調査と分析

VI . 管理・運営

1. 政策・制度変更等への的確な対応
 - ① 政策・制度変更等への的確な対応
2. 業務改善・効率化の推進による業務生産性の向上
 - ① 業務改善・効率化の推進による業務生産性の向上
3. 組織体制の検証
 - ① 組織体制の検証
4. FD・SD の推進と学内研修体制の充実
 - ① FD・SD の推進と学内研修体制の充実
5. ガバナンスの充実
 - ① 教職協働体制の推進
 - ② コンプライアンスの徹底
6. 危機管理体制の充実と高度化
 - ① 危機管理体制の充実と高度化

VII . 施設・設備

1. 安全かつエコロジカルな機能性の高い施設・設備の整備
 - ① 学生満足度を高めるアメニティの整備の検討
 - ② バリアフリー化の整備の推進
 - ③ 学生寮の充実
2. 施設・設備の計画的な営繕・リプレイスの推進
 - ① 施設・設備の計画的な営繕・リプレイスの推進
3. ICT の高度化
 - ① ICT 環境の充実
 - ② 学生・教職員の ICT スキル向上



【スローガン】

日本を代表する社会を担うリーダーを育成できる男女共学中高一貫進学校

【長期ビジョン】

『たしかに学力ゆたかな人間性たくましい行動力』という理念のもと、男女共学の中高一貫の進学校として、個性の伸張を図るとともに、学力開発と人間性開発を推進し、社会に広く共感と支持を得られる学校となる

I . 進学校としての教育活動の推進

- 教育理念・教育方針の再確認
 - ①教育理念・教育方針の再確認と明確化
 - ②教職員間における教育理念と方針の共通理解
 - ③教育理念を支えるコア教科の作成
- 中高一貫校の特性を活かした教育課程の実施
 - ①これからの6ヵ年教育を見据えたカリキュラムの作成
 - ②教育方針に基づいたシラバスの作成
 - ③習熟度に応じた指導体制の強化
 - ④高等部入学者への指導体制の改善
 - ⑤勉学と部活動のバランス最適化
- 学力開発・人間性開発の発展
 - ①新学習指導要領等への対応の研究
 - ②学校行事の整理および体系化
 - ③LHR・SDPの在り方と一貫性のある指導の確立
 - ④アクティブラーニング実施に向けての研究
 - ⑤いじめ防止の徹底
- ICTを活用した教育の確立
 - ①教員のICTを活用した教材・授業の研究
 - ②模試成績におけるデジタルコンテンツの活用
 - ③受験サプリ等外部教材の導入検討
- 国際化に対応した教育指導体制の研究
 - ①留学生受入体制の組織化
 - ②新テストに対応した英語の指導体制の構築
 - ③SDP 国外体験学習の研究
 - ④短期留学プログラムの研究
 - ⑤ディベート・英作文指導に対応した外国人雇用の検討
- キャリア教育の充実
 - ①外部教材の活用
 - ②ライフスキル教育の導入検討
 - ③インターシップの研究
 - ④後援会の活用

II . 機能的な学校運営

- 校務分掌の検証と役割分担の明確化
 - ①校務分掌の再組織化
 - ②各部の校務再検討
- 情報共有の徹底による業務の効率化
 - ①情報共有システムの活用
 - ②各部門の情報共有の徹底
 - ③情報・書類などの電子化
- 教職員の配置
 - ①教育環境充実に図るための教員増員の検討
- 各種制度の検証と構築
 - ①奨学金制度の検証と構築
 - ②特待生制度の検証と構築
- 教職員研修制度の充実による教職員のスキル向上
 - ①研修部門の活性化
 - ②教職員のスキル向上のための研修制度の充実
- 各種評価制度の充実
 - ①学校評価制度の充実
 - ②授業評価制度の充実
- 学校運営に関する意識の向上
 - ①コンプライアンスの確認と徹底
 - ②危機管理の徹底
 - ③機密保持意識の浸透

III . 教育環境の充実

- ICT 機器の導入および研究
 - ①教育用視聴覚機器等の設置
 - ②教職員用の電子端末導入
 - ③ICTの研究部門の設立
- 学内諸施設及び機器の整備
 - ①情報共有システムの更新
 - ②学校施設の整備
 - ③スクールバス運行体制の検証
- インクルーシブ教育環境の整備
 - ①インクルーシブ教育環境の研究
 - ②教員・生徒の意識向上
- 職員福利厚生への充実
 - ①職員福利厚生設備の整備
 - ②職員福利厚生制度の検証
- 寮設備の整備
 - ①寮のアメニティの向上の検討
 - ②安全管理の充実

IV . 生徒募集対策

- 入試制度の再検討
 - ①高等部募集の再検討
- 広報部門の見直し
 - ①広報部門専任者の配置
 - ②学校訪問の在り方の検証と構築
- 効果的な広報戦略の研究と実践
 - ①学校説明会の検証と構築
 - ②生徒目線のオープンスクールの研究と実施
- 保護者満足度の向上
 - ①学内情報の広報活動強化
 - ②保護者と担任・学年主任との連携強化

V . 学園内外との連携

- 生徒寮生活の充実
 - ①寮の指導体制の検証と構築
 - ②チューターの配置検討
- 同窓会・後援会との連携
 - ①同窓会・後援会との連携強化
 - ②卒業生の人材活用
- 設置校との連携
 - ①設置校の施設の利用促進
 - ②設置校との人材交流の活発化
- 外部機関との連携
 - ①県・大学との連携の研究推進
 - ②塾・予備校との連携の検討
- 地域との関係強化
 - ①地域への学校行事の広報活動強化
 - ②地域清掃の継続実施
 - ③体育館等の施設開放の検討

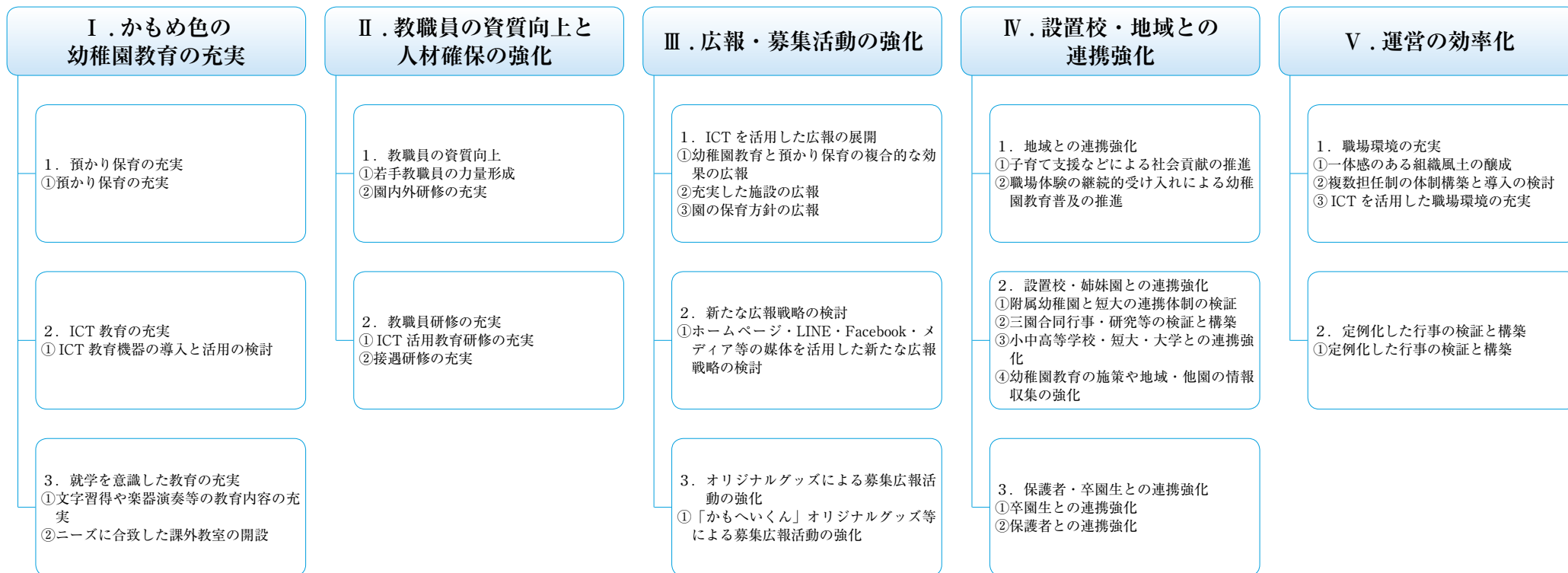


【スローガン】

いきいき にこにこ のびのび かもめっ子

【長期ビジョン】

良き伝統を生かし、未来を担う幼児一人一人の豊かな個性の芽を育む、地域から愛される幼稚園となる





【スローガン】

ドキドキ ワクワク 楽しいこといっぱい! なでしこ幼稚園

【長期ビジョン】

豊かな自然、整備された施設設備、意欲あふれる教職員のなかで、子供たちの笑顔が輝き、いきいき活動する幼稚園となる

I. なでしこ色の幼稚園教育の充実

1. 課外教室教育の特色化
 - ①課外教室の再検証とニーズに合致した教室の開設
2. 環境を生かした体験型教育の充実
 - ①なでしこの森を生かした自然体験活動や行事の充実
3. 特別支援児・2歳児へのサポート体制の確立
 - ①支援補助対象認定手続きサポート
 - ②支援補助体制の検証と構築
 - ③教育相談体制の充実
4. 就学を意識した教育の充実
 - ①文字習得や楽器演奏等の就学を意識した教育内容の編成

II. 教職員の資質向上と人材確保の強化

1. 教職員の資質向上
 - ①資質向上を目的とした教職員研修体制の構築
 - ②複数担任制の体制構築と導入の検討
2. 人材確保の強化
 - ①優秀な教諭の人材確保
 - ②新規採用教諭への指導体制のマニュアル化

III. 広報・募集活動の強化

1. 2歳児受入の促進
 - ①2歳児へのサポート体制の確立と広報
2. ICTを活用した幼稚園教育の情報発信
 - ①ホームページ・LINE・Facebook等の情報媒体の活用
 - ②広報誌・お便り・説明会の充実
 - ③「幼稚園教育の良さ」を発信する広報活動
3. 自園給食を生かした広報活動の強化
 - ①自園給食メニューのホームページへの掲載による広報活動
4. オリジナルグッズによる募集広報活動の強化
 - ①「モリーちゃん」オリジナルグッズ等による募集広報活動の強化
5. 園児送迎バスの郊外運行の充実
 - ①送迎バス増台による路線の強化
 - ②ラッピングバスによる広報強化

IV. 設置校・地域との連携強化

1. 附属幼稚園教育の推進
 - ①鹿児島女子短期大学の人材・施設・情報を連携・活用した附属幼稚園教育の推進
 - ②附属幼稚園と鹿児島女子短期大学の連携体制の検証
2. 小中学校・地域との連携強化と地域行事への積極的参加
 - ①連絡会・連携研修会等への出席
 - ②地域行事への積極的参加
3. 附属幼稚園合同研究・活動の充実
 - ①三園合同行事・研究等の精査選別

V. 運営の効率化

1. 保護者参加型の行事の検証と充実
 - ①共働き世帯が参加しやすい保護者行事の検討
2. 行事・活動の精査選別とマニュアル化
 - ①行事・活動の精査選別とマニュアル化
3. 教材・教具作成の効率化のためのマニュアル化
 - ①教材・教具作成の効率化のためのマニュアル化
4. 職場環境の充実
 - ①マンパワーの充実
 - ②ICTを活用した職場環境の充実



【スローガン】

喜んで登園 満足して降園

【長期ビジョン】

学力の素地となる幼稚園教育を充実させ、3H（ほめる・はげます・ひろげる）指導を推進し、子供の成長を保護者と教師がともに喜びあえる幼稚園となる

I. すみれ色の幼稚園教育の充実

1. 主体的学びの芽生えを育む保育の推進
 - ①主体的学びの芽生えを育む園児の姿の設定
 - ②主体的学びの芽生えを育む教育課程の編成と実施
 - ③主体的学びを育てる保育方法の研究と実践
 - ④就学（小学一年生）を意識した教育の計画と実践
 - ⑤主体的学びを生かす環境の醸成
 - ⑥特別に支援を要する園児教育体制の充実

II. 教職員の資質向上と人材確保の強化

1. 教職員の資質の向上
 - ①園内研修体制の充実
 - ②園外研修体制の充実
2. 人材確保の強化
 - ①優秀な人材の確保
 - ②新規採用教諭への指導体制の強化

III. 広報・募集活動の強化

1. 広報活動の強化
 - ①「幼稚園教育の良さ」を発信する広報活動
 - ②すみれ幼稚園の特色を生かした広報
 - ③保護者とともに成長する子供の姿の広報
 - ④幼稚園の見える化を意識した広報
 - ⑤認定手続き不要・就園奨励費補助金等の広報
2. 募集活動の強化
 - ①体験入園等による保育体験の提供
3. オリジナルグッズによる募集広報活動の強化
 - ①「すみれちゃん」オリジナルグッズ等による募集広報活動の強化

IV. 設置校・地域との連携強化

1. 保護者との連携
 - ①後援会活動の活性化
2. 鹿児島女子短期大学との連携
 - ①附属幼稚園と短大の連携体制の検証
 - ②附属幼稚園としての職員の認識の向上
 - ③短大イベントへの積極的参加
 - ④保護者と実習生との関係強化
3. 地域との連携
 - ①未就園児クラブを活用した地域へのアプローチ
 - ②運動会等の地域参加型活動の強化

V. 運営の効率化

1. 組織の改善
 - ①複数担任制の導入検討
 - ②報告・連絡・相談の徹底
2. 預かり保育の改善
 - ①早朝預かり保育の受け入れ体制の確立
 - ②バスキャッチ導入による預かり保育体制の構築
3. 送迎バス運営の改善
 - ①他園の送迎状況の調査
 - ②送迎エリアの見直しによる運行状況の改善
4. 職場環境の充実
 - ①マンパワーの充実
 - ②職員の職場環境の充実
 - ③ICTを活用した職場環境の充実



志學館学園

なでしこ保育園

【スローガン】

笑顔輝く なでしこ保育園

【長期ビジョン】

ひとり一人の豊かな感性を大切にし、主体性・創造性・協調性を育み、保護者や地域に信頼される生き生きと笑顔あふれる保育園となる

Ⅰ. なでしこ色の
保育園教育の充実

1. 保育の充実と差別化
- ①少人数担当保育の充実
 - ②保育園から幼稚園への連動体制の構築

2. 子育て支援体制の充実
- ①職員・専門員による在園保護者向けの
子育て相談窓口の開設

3. 地域に密着した保育園教育の充実
- ①地域向け子育てサロンの開設
 - ②保護者参加型の未就園児半日体験入園
の開催

Ⅱ. 教職員の資質向上と
人材確保の強化

1. 教職員の資質向上
- ①若年保育士の研修体制のマニュアル化
 - ②学園内外研修への積極的参加

2. 人材確保の強化
- ①実習生サポート体制の充実
 - ②鹿児島女子短期大学学生への説明会や
見学会の実施

Ⅲ. 広報・募集活動の強化

1. 入所していない児童の保護者とのコ
ミュニケーションの強化
- ①子育て相談窓口の場の設置

2. ICTを活用した情報発信の強化
- ①ホームページ・LINE・Facebook等の
情報媒体の活用

3. オリジナルグッズによる募集広報活
動の強化
- ①「なほちゃん」オリジナルグッズ等を
活用した募集広報活動の強化

Ⅳ. 設置校・地域との
連携強化

1. 本部・設置校との連携強化
- ①本部・設置校との連携強化

2. 地域との連携強化に向けたイベン
トの充実
- ①保育所地域活動事業の開催
 - ②ボランティア月間の実施

Ⅴ. 運営の効率化

1. ICTを活用した情報の共有化
- ①学園ネットワーク整備による情報の共
有化

2. 定例化した行事の検証と再構築
- ①定例化した行事の検証と再構築

【スローガン】

健全経営を堅持し信頼される学校法人

【長期ビジョン】

強固な財政基盤・組織体制・教育環境の構築を実現し、地域社会に貢献する学校法人となる

I. 「経営力」の強化

1. 定量的目標に基づく財政基盤の確立
- ①事業活動収支計画の策定と実行
 - ②適確な予算編成と厳格な予算執行
 - ③教育活動収入価格設定の検証と時宜改訂
 - ④外部資金増加策の検討と推進

2. ICT環境整備による事務の効率化
- ①ネットシステム構築による事務処理の合理化
 - ②学納金・寄付金納付サポートシステムの構築と稼働
 - ③web出願システムの導入

3. 本部コンサルティング機能の充実
- ①国際化推進体制の整備
 - ②募集戦略の活性化
 - ③広報体制の強化
 - ④キャンパス・アメニティ向上への取り組み
 - ⑤IRの有効活用

II. 「組織力」の増強

1. 人事制度の再構築
- ①コース別人事制度の導入
 - ②キャリアパス導入による基準・条件の明確化
 - ③育成目標を明確にした計画的な人事異動の実施
 - ④有能なOB・OGの再雇用制度の構築
 - ⑤ワークライフバランスの実現

2. 人材育成システムの構築
- ①計画的な研修制度の確立
 - ②資格取得時報奨金・自己啓発手当制度の導入

3. ICT環境整備による意思決定・合意形成システムの構築
- ①学園ネットワークによる通達・事務連絡システムの構築と稼働
 - ②ネット決裁システムの構築と稼働

4. コンプライアンス意識の向上とリスク管理体制の強化
- ①コンプライアンス意識の更なる醸成
 - ②リスク管理体制の構築と強化

III. 「連携力」の構築

1. 企業・行政・地域社会との連携強化
- ①地域創生への貢献

2. 卒業生・保護者との連携強化
- ①同窓会・後援会との連携強化の導入

3. 本部・設置校間の連携強化
- ①本部・設置校間の連携強化サポート

4. 他校との連携強化
- ①高大連携協定の促進
 - ②国内外日本語学校との協定支援

IV. 「環境力」の充実

1. 教育施設の充実
- ①学園施設設備投資計画の策定
 - ②施設マネジメント体制の構築
 - ③エコキャンパス・バリアフリー・耐震補強改修事業の推進

2. ICT活用による学生支援システムの構築
- ①ポータルサイトを活用した学生向け情報揭示システムの導入

V. 「革新力」の創出

1. 新規事業による収益事業の創出
- ①法人設立による外部流出コストの内生化
 - ②学園オリジナルグッズ展開による認知度向上
 - ③所有資産を活用した収益事業の創出

2. 大学・短大の学部・学科の改組・新設の検討
- ①地域社会に対応した学部・学科の創設検討
 - ②通信教育部門の創設検討
 - ③生涯学習センターを活用した生涯教育の充実

3. 幼保連携の検討継続
- ①幼・保施策の情報収集

